

# このひとをじっくり探してみますか？

## 第4回

(現在の七十億円以上に及び損傷を被り、機能を焼失した工場はついに再建されることなく、深谷の富国はその歴史に幕を閉じました。



▲繰糸場で働く工女達

### 両角市次郎 もろずみ いちじろう

(慶応元年～大正10年)



▲『両角市次郎肖像』福島県立博物館所蔵

両角市次郎は、慶応元年(一八六五年)年、長野県諏訪郡宮川村(現在の茅野市)に生まれました。父・両角庄内とともに、地元宮川村に『富国館』を創設しました。明治二十二年(一八八九)年、製糸原料となる繭を購入するため、深谷町(現在の深谷市)を訪れた市次郎は、継続的に繭取引を行い、地元生産者との信頼関係を築いていきました。明治二十九(一九〇六)年刊行の『日本製糸業の大勢』によれば、市次郎は宮川工場の経営を父に委ね、明治三二(一八九八)年一月、周囲に工場がなく多くの原料繭が確保



▲富国館製糸工場

下二位の大製糸所となりました。大正八(一九一九)年刊行の『埼玉縣大里郡郷土史』によれば、全敷地面積八千六百坪、工場敷地四千八百坪、釜数千五百釜、就業する男工二百二十人、女工千三百人、生糸の年間生産高一万八千貫(約百五トン)と記されています。『優良なる生糸の生産は優秀な



▲『富国館2斗5升樽』繭を量る際に使用したといわれています

る工女と器械による』という市次郎の経営理念により、工場敷地内には劇場、浴場、教育施設、動物園が造られ、一つの街のように機能していたといわれています。大正五(一九一六)年、渋沢治太郎など地元事業家有志によって、西武蚕業改良組合が創立される際は、これに積極的に参加し、生繭の正量取引の実現に貢献しました。また、蚕の品種改良と繭質の向上を積極的に呼び掛けました。地方蚕業の発展に尽くした市次郎は、大正十(一九二二)年五十七歳で亡くなりました。市次郎が亡くなった後の深谷工場の経営は娘婿の幸助が引き継ぎますが、大正十五年(一九二六)年三月、大規模な火災により三百万円

### 用語の手引

#### 『生繭の正量取引』

品質を正しく評価することが難しく、言い値で買い取られることが多かった生繭を、一定の量の抜き取り検査によって糸量や品質で選別して、等級ごとに決めた金額で売買する公正な取引方法

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

# 市長の深い話

深谷市長 小島 進



### 地方創生の取り組み

『広報ふかや』6月号で特集を組んだ、『地方創生』に関する取り組みが始まっています。『地方創生』について政府は、『まち・ひと・しごと創生』と称し、2008年に始まった人口減少に歯止めをかけ、国全体で2060年に1億人程度の人口を確保することや、地方を活性化することにより、将来にわたって活力ある社会を維持することを目指しています。

そのため、今後取り組むべき方向を示した『長期ビジョン』や具体的な施策をまとめた『総合戦略』を策定し、その取り組み

みの一環として、『地域住民生活等緊急支援のための交付金』を全国の自治体に交付しました。深谷市でも、この交付金を活用したプレミアム付商品券を7月5日(日)から販売します。また、多子世帯の経済的負担の軽減のため、多子世帯向け商品券の支給を実施します。多子世帯向け商品券は、基準日(平成27年6月1日)において、平成8年4月2日以降に生まれたかたが同一世帯に3人以上いる約2000世帯に商品券を支給するものです。

さらに、地方創生の先行策としてふるさと納税の返礼品を通じて市内事業者の販路の拡大や商品開発力の向上につながる取り組みなどを実施します。多子世帯向け商品券やふるさと納税のような独自の取り組みを行うことが、深谷市の魅力をさらに向上し、選ばれるまちになるためには必要であると考えます。

今年度中に深谷市版『人口ビジョン』・『総合戦略』を策定し、地方創生の取り組みを加速していきたいと考えています。

### ありがとうの手紙



最優秀賞  
高校生・大学生の部  
お母さんへ

深谷高校3年(現大学1年) 岩崎志保さん

母親と娘は、一般的に仲が良いイメージをもつのは私だけでしょうか。私と母は仲が良いとは思いません。悩み事を話すこともありません。我が道をゆく自由な母を大好きだと言える自信はありません。ですが、一つ、尊敬している出来事があります。私を産んだら自分の命が危ないといわれても即決で産むことを決めてくれて、有り難う。その時の決断が違っていたら、私はここにいません。なのに、こんな娘でごめんね。母のまっすぐで強い心を受け継がせて下さい。

### みんなの声BOX

Q 個展の開催情報やサークルの会員募集などを掲載できる方法がありますか？

A 市ホームページ内の『おてかけ』深谷Do楽』をご利用ください。

市民の皆さんに向けて個人・団体・法人などが情報発信を行う場として開設しています。行事・イベントなどの告知、サークルなどの会員募集などにもご利用ください。

問い合わせ 秘書課 ☎574-6631

